
アカイト

大宮アリス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

アカイト

【Nコード】

N2471I

【作者名】

大宮アリス

【あらすじ】

櫻井愛希の初恋を描く、ちょっぴり甘いラブストーリーです。

運命の出会い。

もうちょっと、あともうちょっとでどどく。もう、誰だよ、あたしの本、片付けたの。この本は、あたしの本だってば。そう思いながら、本に手を伸ばしていた。

やった、とどいた。あっ、あれ、落ちてく？もう少しで、床に落ちる？

あたしは、ギョツと目をつぶった。落ちるよっつ。

あれ、おかしいな、あたし、どうなったの？

そつと目を開けてみると、あたしは、誰かの腕の中にいた。

誰？

あたしを抱いていた人の顔をのぞきこんでみた。あっ、この人知ってる、気がする。確か、同じクラスの…。

「んっ？どこどこ」

あたしが辺りを見回していると、

「起きたのね、櫻井さん。具合はどう？」

と、医務室の河野先生に声をかけられた。

そうか、あたしは図書室で本を取ろうとして、落ちそうになったんだ。それで、誰かに助けてもらったんだ。それで、あたしは、そのまま寝たの……。

「櫻井さん、大丈夫？まだ、具合悪い？」
先生が聞いたので、あたしは「もう大丈夫です」と答えた。
「あなたと同じクラスの、二宮くんが連れてきてくれたのよ」
「あつ、二宮くんが」
「ええ。じゃあ、教室、一人で帰れるわね」
「はい。ありがとうございます」
そう言っつて、あたしは医務室を出た。

二宮くんだったのか。あとで、お礼言っとかなきやな。あたしは、急いで教室に戻った。あたしが、教室のドアを開けた。

教室では、国語の授業をしているところだった。

「あつ、先生。櫻井さん帰ってきました」

あたしの隣の席の大野くんが言った。

先生が「急いで席に着きなさい」と言っつたので、あたしは急いで席に着いた。

学校が終わっつて、あたしは、大親友の相葉早紀と一緒に帰った。

「先生、あの言い方はないよね。愛希は、今まで医務室にいたんだよ」

早紀は少し怒っつていた。

「あたし、気にしてないから大丈夫だよ」

早紀を落ち着かせるために、あたしは言った。

「愛希はよくても、あたしがイライラするよ」

あたしは、早紀があたしを気にかけてくれるのが変だけど、少し嬉しかった。

「あつ、忘れてた」

あたしは、二宮くんにお礼をするのを忘れてたことを思い出した。

「えっ、何を？」

「あたし、ちよっつと行っつてくるね」

すると、早紀が、

「えっ、どこ行くの?」

と訊いたので、ニコツと笑って、走って二宮くんのところに行った。

「あの、二宮くん」

前から、二宮くんが女の子に人気なのは知っていた。だから、しゃべったことはないけど、どこかで少し、期待していた、と思う。

「何?」

二宮くんは、なぜか、どこか強く引き寄せられる声だった。

あたしは、少しドキドキしながら、

「あの、今日は、あの、助けてくれて、あの、ありがとう、とうつつまりつまりに言った。」

「別に。あのさ、そこ邪魔。どいてくんない」

「えっ?」

あたしが想像してた二宮くんじゃない。っていうか、なにそれ。あたしは、すごい緊張したのに。ドキドキしたのに。あたしのドキドキを返してよ。

「意味わかんない」

あたしは、そう叫んで、早紀のところにもどった。

「やばいよ」

あたしは、早紀だけに聞こえるような小さな声でつぶやいた。

「何が?」

早紀は、分けわかんない、って顔をして、あたしに訊いた。

「二宮くんがだよ。ありえないよ。あたしは、二宮くんに、『ありがとう』って言っただけなんだよ、なのに、なのに返事は『邪魔、どいて』だよ。あたし、二宮くんって、もっといい人なんだと思ってたよ」

運命の出会い。(後書き)

まだまだ未熟なので、温かい目でお見守りください。

大宮アリス

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2471i/>

アカイイト

2010年12月29日14時18分発行